



熊本地震で倒壊、土砂に流された家屋

# 消防隊員、熊本地震被災地での救助へ。

平成28年熊本地震から学ぶ

4月14日(木)16日(土)に震度7を記録し、49人の尊い命が犠牲となった「平成28年熊本地震」。

高知県からは地震発生翌日から救助隊、警察、医療チーム、避難所運営サポートなど、延べ約370人を派遣しています。(5月12日現在)

香南市消防本部からは3人の隊員が高知県緊急消防援助隊として参加。大きな地すべりで家屋が損壊した南阿蘇村河陽地区で、行方不明者の捜索活動に従事しました。今回の地震から「私たちが学ぶことは何か?」を踏まえ、現地で任務にあたった溝淵裕介隊員に話を伺いました。



## 自分で守る 自分の命

熊本地震は内陸での地震で、津波は発生しませんでした。

一方、私たちが住む高知県で想定されている南海トラフ地震では、津波の被害予想が大きく取り扱われることが多いのですが、津波の前に地震が発生します。これに耐えられなければ逃げることもできません。まずは、地震による家や地域の被害を最小限に抑えることが重要であり、それが自分の命を守ることへの一番の近道となります。

一人ひとりの防災意識と事前準備が最も重要です。今からできることを、家庭や地域で話し合い、対策を進めていきましょう。

## 広報編集委員のマイ避難グッズ

地震を逃れ避難場所へ向かう時に必要になる「避難グッズ」。皆さんはどのようなものを用意していますか?。広報編集委員も「どんなものが必要か」を考え、それぞれが避難グッズを準備しています。バッグの中にどんなものを入れているか、広げってみました。皆さんも、もしまだ用意していなければ今のうちに準備を!



- レインコート
- 断熱マット
- ブランケット
- ゴム手袋
- ロープ
- ガムテープ
- ポケットティッシュ

- スリッパ
- 口ウソク
- 乾電池ライター
- 応急手当用品
- マスク



赤ちゃんやお年寄りなど、家族構成によって必要なものを用意しましょう。

## ◆袋などに入れて用意しておく 良い基本セット例

- 懐中電灯
- 携帯ラジオ
- 飲料水、非常食  
(乾パンなど火を通さず食べられるもの。乳幼児がいる場合は粉ミルクなど)
- 貴重品  
(現金、預貯金通帳、健康保険証のコピーなど。現金は硬貨もあると便利)
- 救急医薬品  
(キズ薬、バンソウコウ、かぜ薬、胃腸薬、目薬、常備薬など)
- その他  
(防災ずきん、タオル、軍手、予備電池、ライター、ナイフ、ビニール袋、ティッシュ、下着、生理用品、紙おむつ、ほ乳瓶など)

## 食料品セット



3日分の調理済み食糧と、水、食器やスプーンなどが入っているセット。開封するだけで食べられます。箱は中身を取り出すと簡易トイレに!

## 数百人で ひとりを捜す



香南消防本部の3人は、高知市消防局と共に高知県の二次派遣部隊として19日(火)に現地入りしました。四国から九州へはフェリーを利用し、移動はスムーズでした。

熊本県に入り、現場に近づくと、道路の地割れや家屋の倒壊が目立つようになり、一階が押し潰されたアパートもありました。

現場は比較的新しくできた住宅地でしたが、土砂崩れで新しい住宅が傾いたり、土砂に流されたり埋もれたりして、まだ2人が行方不明という状況でした。行方不明者の捜索活動を自衛隊、他県の警察、消防と合同で行いました。自衛隊の重機と、スコップを使って手作業の土砂撤去に

徹し、行方不明者がいるであろう大量の土砂に埋もれ見えない家や車を掘り出す作業です。しかし、重機で家などを掘り当てるまでは何もできません。見守ることしかできない時間が続くことに悔しさを感じました。捜索は交代制で、1日に14回行いました。途中、1人が心肺停止の状態で見えなくなりました。(のち、死亡が確認されました)

天候悪化が迫っている状況となり、一刻の猶予もなく夜を徹する作業が開始されましたが、とうとう雨が降り始めたので捜索活動は中止。任務が解除され、21日(木)に撤収につきました。

私たちが住む高知県で想定されている南海トラフ地震では、津波の被害予想が大きく取り扱われることが多いのですが、今回現地を見て「まずは津波の前に、地震の揺れから自分自身の身を守る行動が重要だ」と再認識しました。



溝淵裕介隊員